

特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と 実践に関する研究

—ファーストステップ研修と求められる介護福祉士像12項目の意識調査から—

牛田 篤
福山平成大学 福祉健康学部
(福祉学科)

E-mail : a-ushida@heisei-u.ac.jp

【要旨】

本研究は、A県全ての特別養護老人ホームおよび地域密着型特別養護老人ホーム105箇所に協力依頼し、19施設255名の介護福祉士から有効回答を得た調査である。本研究から介護福祉士のファーストステップ研修に関する修了実態と受講意識の傾向が明らかになった。さらに、求められる介護福祉士像12項目に関する実践意識の傾向が明らかとなった。

ファーストステップ研修を修了した介護福祉士の実態として、地域密着型特別養護老人ホーム勤務者より、特別養護老人ホームに勤務して介護実践する傾向が示唆された。

また、求められる介護福祉士像12項目の実践意識から、「自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる」、「施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力」「心理的・社会的支援の重視」「関連領域の基本的な理解」「高い倫理性の保持」の5項目があまりできていないという傾向が顕著に示唆された。前述の結果から、特別養護老人ホームの介護福祉士にとって、介護福祉士の業は利用者の心身の状態に応じた介護であるからこそ、施設内における利用者に対する介護は実践できている意識が抽出された。しかし、政策や地域まで広範囲を意識した介護までは実践不足が生じる課題が抽出された。

KEY WORDS : 介護福祉士 ファーストステップ研修 求められる介護福祉士像12項目

1. はじめに

介護福祉士は、社会福祉士及び介護福祉士法によって、1987年制定された介護や介護福祉分野の国家資格である。そして、2007年の改正によって、「介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うこと」と定義している。さらに、2007年の法律改正では、「社会福祉士又は介護福祉士は、社会福祉及び介護を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に適應するため、相談援助又は介護等に関する知識及び技能の向上に努めなければならない」と資質向上の責務も加えられている。そして、厚生労働省は、2015年6月24日報道関係者各位に対して、「2025年に向けた介護人材にかかる需給推計（確定値）について」において、2025年に向けた介護人材の不足、多様な介護人材の確保及び介護福祉士の役割等を示している。そこで、公益社団法人日本介護福祉士会では、2016年以降は介護福祉士の生涯研修体系を介護福祉士基本研修、ファーストステップ研修、認定介護福祉士の3段階と明確化し、介護福祉士の職能団体としてキャリア形成の促進に取り組んでいる。その際、認定介護福祉士においては、事業者や施設のみでなく地域のマネジメントまでを役割とし、介護福祉士の2%～3%を想定している。さらに、認定介護福祉士を目指す前段階として、ファーストステップ研修の受講を推奨している。一方、介護福祉士養成教育および介護福祉士実務者研修資格等において、求められる介護福祉士像12項目を明確に示し、多様な介護人材の中核的な存在として介護福祉士の社会的な役割はより期待されている。しかし、要介護3以上が入所要件となった特別養護老人ホームにおいては、ADLの低下のみでなく、認知症や様々な障害の重度化した利用者を介護する状況となっている。よって、特別養護老人ホームにおける介護福祉士を対象としたキャリア形成の検討、求められる介護福祉士像12項目の実践意識の可視化、それらの課題抽出および検討は重要である。



図1 公益社団法人日本介護福祉士会の示す生涯研修体系 (HP引用)

脚注 介護福祉士基礎研修（旧：介護福祉士初任者研修）：介護過程を中心した研修内容
 認定介護福祉士：地域包括ケアシステムの構築を担うマネジメント、利用者ニーズの多様化や高度化に対応する質の高い介護実践、介護職の指導・教育、医療職等との連携強化などの研修内容

表1 求められる介護福祉士像12項目

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域（空室）を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

出典 厚生労働省発行

II. 目的

本研究では、特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と実践に関する課題抽出およびその課題を検討する為、特別養護老人ホームにおける介護福祉士を対象としてファーストステップ研修に関する修了者の実態と受講意識を明らかにする。さらに、求められる介護福祉士像12項目に関する実践意識を明らかにする。その際、平成2016年3月現在のA県全ての特別養護老人ホーム82施設および地域密着型特別養護老人ホーム23施設の計105施設に勤務する介護福祉士を対象とする。

III. 方法

研究方法

1. 対象 2016年3月時点におけるA県内全従来型特別養護老人ホーム（82施設）および全地域密着型特別養護老人ホーム（23施設）計105施設に勤務する介護福祉士を対象とする。

2. 調査方法 郵送による自記式質問紙調査

3. 調査実施期間 2016年3月1日～7月31日

4. 調査内容 表2の通りであり、対象者の経験年数や性別等の基本属性に加え、介護福祉士ファーストステップ研修および求められる介護福祉士像12項目に関する内容を含めて20項目を調査項目として設定した。

5. 本調査に際しての倫理的配慮は以下の通りである。
 倫理的留意①本調査実施に際して、富山福祉短期大学の倫理委員会より承認を得ている（承認番号：福短H27-026号）。②A県内の全特別養護老人ホーム施設長宛に書面又は口頭にて事前説明と同意を得た後、該当する介護福祉士の人数情報を得て調査用紙を郵送する。③対象者となる各特別養護老人ホームの介護福祉士に対しては、書面にて事前説明する。対象者に対する本研究の同意は、調査用紙の返信を持って本人の同意とする。④本調査は無記名であり、さらに同意を得た施設が特定されることのないように本調査データを取り扱う。⑤対象者のプライバシー保護に留意し、データ管理責任者を決めて一元的に管理を行う。

6. 分析方法 職員の従事年数や性別等の基本属性、ファーストステップ研修に関する内容および求められる介護福祉士像12項目の実践意識の回答について記述統計、 χ^2 検定を用いて分析する。

IV. 結果

本調査では、A県全ての特別養護老人ホームおよび地域密着型特別養護老人ホーム計105施設に協力依頼し、19施設260名の介護福祉士から回答を得た。その際、有効回答数は255名であった。19施設の回答は、特別養護老人ホーム12施設、地域密着型特別養護老人ホーム7施設であった。前述の同意を得た255名の基本属性は、表3の通りとなった。従事年数は、2年未満から10年以上であり、20代から60代の男女から回答を得た。ファーストステップ研修修了者は、表4の通り23名であった。ファーストステップ研修の受講意識は、表5の通り主に「どちらともいえない」153名であった。そして、ファーストステップ研修受講を必要とする介護

表2 本調査の質問項目と内容

項目	内容
問1	あなたの勤務先の種別を教えてください
問2	あなたの介護福祉士取得後の従事年数を教えてください ※複数の介護職場における経験も含む
問3	あなたの性別を教えてください
問4	あなたの年齢を教えてください
問5	介護福祉士ファーストステップ研修（以後、ファーストステップ研修）を修了していますか
問6	問5で「1. 修了している」に該当した方にお聞きします あなたのファーストステップ研修を受講した年度を教えてください
問7	問5で「2. 修了していない」に該当した方にお聞きします 今後、ファーストステップ研修を修了したいですか
問8	ファーストステップの研修について、受講する必要があると感じる該当者を教えてください ※複数回答可
問9	尊厳を支えるケアの実践を意識して、日頃のケアを実践できていますか
問10	現場で必要とされる実践的能力を意識して、介護を実践できていますか
問11	自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できることを意識し、介護を実践できていますか
問12	施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力を意識して、介護を実践できていますか
問13	心理的・社会的支援の重視を意識して、介護を実践できていますか。
問14	予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できることを意識し、介護を実践できていますか
問15	多職種協働によるチームケアを意識し、介護を実践できていますか
問16	一人でも基本的な対応ができることを意識し、介護を実践できていますか
問17	『個別ケア』の実践を意識し、介護を実践できていますか
問18	利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力を意識し、介護を実践できていますか
問19	関連領域の基本的な理解を意識し、介護を実践できていますか
問20	高い倫理性の保持を意識し、介護を実践できていますか

職員は表6の通り、2年未満から7年以上まで介護福祉士取得後に必要という回答を得た。

また、求められる介護福祉士像12項目に関する実践意識は、表7の通りとなった。求められる介護福祉士像12項目の実践意識について、「尊厳を支えるケアの実践」、「現場で必要とされる実践的能力」、「予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる」、「多職種協働によるチームケア」、「一人でも基本的な対応ができる」、「『個別ケア』の実践」、「利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力」の8項目では「ある程度できています」という結果となった。一方、「自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる」、「施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力」「心理的・社会的支援の重視」「関連領域の基本的な理解」「高い倫理性の保持」の5項目において、「あまりできていない」と回答し、求められる介護福祉士像12項目の実践意識が明らかとなった。

表3 調査対象者の基本属性

	修了者		未修了者		検定
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
対象人数	23人		232人		
性別					n.s.: not significant
男性	5 (21.7)	56 (24.1)	n.s.		
女性	18 (78.3)	175 (75.4)			
未記入	0 (0.0)	1 (0.4)			
年齢					
20才代	8 (34.8)	56 (24.1)	n.s.		
30才代	8 (34.8)	85 (36.6)			
40才代	3 (13.0)	57 (24.6)			
50才代	3 (13.0)	30 (12.9)			
60才代	1 (4.3)	4 (1.7)			
勤務先					
特別養護老人ホーム	23 (100.0)	215 (92.7)	n.s.		
地域密着型特別養護老人ホーム	0 (0.0)	16 (6.9)			
未記入	0 (0.0)	1 (0.4)			
従事年数					
2年未満	3 (13.0)	35 (15.1)	n.s.		
2年以上5年未満	4 (17.4)	39 (16.8)			
5年以上7年未満	1 (4.3)	33 (14.2)			
7年以上10年未満	7 (30.4)	36 (15.5)			
10年以上	8 (34.8)	86 (37.1)			
未記入	0 (0.0)	3 (1.3)			

比較には χ^2 検定を用いた。

表4 ファーストステップ研修修了者の受講年度

研修受講年度	修了者	
	人数	(%)
対象人数	23人	
平成15年度	1	(4.3)
平成16年度	1	(4.3)
平成19年度	2	(8.7)
平成21年度	2	(8.7)
平成22年度	1	(4.3)
平成23年度	1	(4.3)
平成25年度	2	(8.7)
平成26年度	3	(13.0)
平成27年度	5	(21.7)
平成28年度	1	(4.3)
未記入	4	(17.4)

表5 ファーストステップ研修修了希望の意識

研修修了希望	未修了者	
	人数	(%)
対象人数	232人	
修了したい	42	(18.1)
修了したいと思わない	36	(15.5)
どちらともいえない	152	(65.5)
未記入	2	(0.9)

表6 ファーストステップ研修受講を必要と感じる介護職員

介護福祉士取得後2年未満の介護職員	53
介護福祉士取得後2年以上5年未満の介護職員	42
介護福祉士取得後5年以上7年未満の介護職員	24
介護福祉士取得後7年以上の介護職員	17
無回答	154

※複数回答可

表7 研修修了有無別による求められる介護福祉士像 12項目

	修了者		未修了者		検定
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	
	22人		232人		
研修を意図した介護					n.s.: not significant
よくできている	1 (4.5)	8 (3.4)			
ある程度できている	18 (78.3)	178 (76.7)			
あまりできていない	4 (17.4)	35 (19.4)			
全くできていない	0 (0.0)	0 (0.0)			
未記入	0 (0.0)	1 (0.4)			
課題的能力を意図した介護					n.s.
よくできている	0 (0.0)	12 (5.2)			
ある程度できている	19 (82.6)	168 (72.4)			
あまりできていない	4 (17.4)	50 (21.6)			
全くできていない	0 (0.0)	1 (0.4)			
未記入	0 (0.0)	1 (0.4)			
自立支援を意図した介護					n.s.
よくできている	1 (4.3)	3 (1.3)			
ある程度できている	14 (60.9)	132 (56.9)			
あまりできていない	8 (34.8)	97 (41.8)			
全くできていない	0 (0.0)	0 (0.0)			
未記入	0 (0.0)	0 (0.0)			
汎用性を意図した介護					n.s.
よくできている	0 (0.0)	1 (1.3)			
ある程度できている	11 (47.8)	101 (43.3)			
あまりできていない	10 (43.5)	108 (45.6)			
全くできていない	2 (8.7)	10 (4.3)			
未記入	0 (0.0)	10 (4.3)			
心理的・社会的支援を意図した介護					n.s.
よくできている	2 (8.7)	6 (2.6)			
ある程度できている	14 (60.9)	121 (52.2)			
あまりできていない	7 (30.4)	91 (40.1)			
全くできていない	0 (0.0)	7 (3.0)			
未記入	0 (0.0)	5 (2.2)			
状態変化への対応を意図した介護					n.s.
よくできている	1 (4.3)	15 (6.5)			
ある程度できている	20 (87.0)	158 (68.1)			
あまりできていない	2 (8.7)	35 (15.1)			
全くできていない	0 (0.0)	4 (1.7)			
未記入	0 (0.0)	0 (0.0)			
非言語的コミュニケーションを意図した介護					n.s.
よくできている	4 (17.4)	33 (14.2)			
ある程度できている	15 (65.2)	155 (66.8)			
あまりできていない	4 (17.4)	41 (17.7)			
全くできていない	0 (0.0)	2 (0.9)			
未記入	0 (0.0)	1 (0.4)			
一人でも基本的な対応を意図した介護					n.s.
よくできている	1 (4.3)	21 (9.1)			
ある程度できている	21 (91.3)	177 (75.1)			
あまりできていない	1 (4.3)	30 (12.9)			
全くできていない	0 (0.0)	0 (0.0)			
未記入	0 (0.0)	4 (1.7)			
個別ケアを意図した介護					n.s.
よくできている	2 (8.7)	16 (6.9)			
ある程度できている	14 (60.9)	145 (62.5)			
あまりできていない	7 (30.4)	68 (29.3)			
全くできていない	0 (0.0)	0 (0.0)			
未記入	0 (0.0)	1 (0.4)			
コミュニケーションと記録を意図した介護					n.s.
よくできている	1 (4.3)	11 (4.7)			
ある程度できている	17 (73.0)	164 (70.7)			
あまりできていない	5 (21.7)	34 (14.6)			
全くできていない	0 (0.0)	0 (0.0)			
未記入	0 (0.0)	1 (0.4)			
関連領域の理解を意図した介護					n.s.
よくできている	0 (0.0)	3 (1.3)			
ある程度できている	12 (52.2)	114 (49.1)			
あまりできていない	11 (47.8)	98 (42.2)			
全くできていない	0 (0.0)	11 (4.7)			
未記入	0 (0.0)	16 (6.9)			
高い倫理性の保持を意図した介護					n.s.
よくできている	1 (4.3)	9 (3.9)			
ある程度できている	15 (65.2)	120 (51.7)			
あまりできていない	7 (30.4)	92 (39.7)			
全くできていない	0 (0.0)	5 (2.2)			
未記入	0 (0.0)	6 (2.6)			

比較にはχ²検定を用いた。

V. 考察

本結果から、A県ではファーストステップ研修を修了した介護福祉士の実態として、地域密着型特別養護老人ホーム勤務者より、特別養護老人ホームに勤務して介護実践する傾向が示唆された。

また、求められる介護福祉士像12項目の実践意識から、「自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる」、「施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力」「心理的・社会的支援の重視」「関連領域の基本的な理解」「高い倫理性の保持」の5項目が「あまりできていない」という傾向が示唆された。前述の結果から、特別養護老人ホームの介護福祉士にとって、介護福祉士の業は利用者の心身の状態に応じた介護であるからこそ、施設内における利用者に対する介護は意識して実践できている傾向が抽出されたと考える。しかし、政策や地域まで広範囲を意識した介護までは実践不足が生じる課題が抽出されたと推察する。

一方、地域包括ケアシステムの構築や認定介護福祉士の動向では、前述の5項目に対する介護実践がますます期待されている。その際、今後の介護人材の推移から、介護人材の不足、多様な介護人材の対応、それらの勤務環境の中で、重度の要介護者を介護するからこそ、特別養護老人ホームの介護福祉士にとって、日頃の介護実践のみでは地域や在宅、制度や政策、施設外までを視野に入れた高い倫理観を実践することは容易ではない。

よって、今後の介護福祉士は、資質向上の責務と生涯学習の観点から、階層性と専門性に基づく介護福祉士のキャリア形成および求められる介護福祉士像12項目の実践の質の確保と向上の一つとして職能団体の生涯研修受講が重要であると考え。その際、ファーストステップ研修は、介護に関する知識と技術のみを修得する研修ではなく、200時間の研修において、高齢者福祉や障害者福祉等の様々な場所で勤務する介護福祉士達によって、介護実践を内省しながら「ケア」「連携」「運営管理基礎」の3領域を学修するからこそ、前述の課題改善に有効な研修であると考え。また、介護福祉士のキャリア形成について、生涯研修体系では3種類の研修を明示している。これらの研修は、日頃の介護実践を内省し、介護過程を用いた根拠に基づく介護実践、適切なPDCAサイクル、組織や運営、施設と地域や在宅をつなぐマネジメントまでミクロ、メゾ、マクロの視点による思考の枠組みを構築し、一人ひとりの利用者に対する具体的な実践能力の修得ということが段階的に可能な内容であ

る。しかし、介護福祉士取得後のキャリア形成について、各生涯研修を修了し、介護実践を積み上げながら形成される能力や思考に関する検証においては、今後の課題である。

VI. おわりに

本研究はA県全ての特別養護老人ホームおよび地域密着型特別養護老人ホーム105箇所に協力依頼し、19施設255名の介護福祉士から得た郵送調査20項目を統計分析している。他県との比較による検討がない点は研究の限界である。

介護福祉士の生涯研修体系については、2014年度から介護福祉士初任者研修が介護福祉士基本研修と移行している状況がある。介護福祉士基本研修について、A県では、高齢者施設等から新人研修の一環として勤務時間内に受講する実態もある。ファーストステップ研修については、社会福祉法人全国社会福祉協議会から、2008年9月に「介護福祉士ファーストステップ研修に関する介護職員のキャリア開発支援システム普及促進モデル事業」が報告されている。その後、介護福祉士の小規模リーダー養成を目的として複数の都道府県介護福祉士会を中心に研修を進めている。ただし、全ての都道府県において毎年開催することが困難な状況である。これらの実態について明らかにしていくことは、今後の研究課題である。A県においても、平成2009年度から平成2014年度までに60名のファーストステップ研修修了者を輩出している。しかし、平成27年度以降は開催が年々厳しい状況となっている。一方、2017年3月30日現在、全国の動向としては国内初の認定介護福祉士が11名誕生している。その後、長野県や三重県の介護福祉士会において認定介護福祉士の研修が開始されている。さらに、2017年3月28日現在の厚生労働省資料では、「今後、求められる介護福祉士」が示されている状況である。

本研究については、自由記述による郵送調査やインタビュー調査による追跡調査の結果からより多角的に検討することが必要である。その際、本研究で得たファーストステップ研修に関する実態と受講意識から、特別養護老人ホームの介護福祉士に対して、ファーストステップ研修の詳細な説明書を用いた調査を実施することによって、ファーストステップ研修に関する明確な受講意識を明らかにすることが可能と考える。さらに、ファーストステップ研修受講を取り巻く促進因子と疎外因子に関する聞き取り調査や他県の生涯研修修了実態の調査から検

討することも重要であると考えられる。

参考文献

- 1) 厚生労働省『介護福祉士及び社会福祉士制度の在り方に関する意見』社会保障審議会福祉部会 平成18年12月12日
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/12/dl/s1212-4b01.pdf>)
- 2) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会(平成20年9月)『介護職員のキャリア形成支援の制度化に向けた提案 小規模チームのリーダー養成等を目的とした「介護福祉士ファーストステップ研修」』
(http://www.shakyo.or.jp/news/081113_2.pdf)
- 3) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会(平成21年3月)『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修 ガイドライン～研修の企画、展開の指針』
(http://www.shakyo.or.jp/research/05_pdf/final_1ststep.pdf)
- 4) 中司登志美(2009)「介護福祉士現任者教育の抱える課題 介護福祉士ファーストステップ研修(広島県)をふまえて」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』4巻1号, 1-8
- 5) 岡田史(2011)「介護福祉専門職育成における専門職団体の役割と課題—新潟県介護福祉士会会員の研修ニーズに関する意識調査から」『新潟医療福祉学会誌』10巻2号, 4-9
- 6) 厚生労働省『福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ』第1回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成26年10月27日資料3
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000062880.pdf)
- 7) 厚生労働省『介護人材の機能とキャリアパスについて』第6回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年10月5日資料1
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000138946.pdf)
- 8) 厚生労働省『介護人材の機能に応じた育成のあり方について』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日資料
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_

Shakaihoshoutantou/0000142796.pdf)

- 9) 厚生労働省『介護人材における介護福祉士の役割に係る意見書』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日参考資料2 (公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也)
- 10) 厚生労働省『介護人材の機能とキャリアパスの実現に向けて』第8回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年12月13日資料1 (http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000145742.pdf)
- 11) 黒澤貞夫・石橋真二・是枝祥子・上原千寿子・白井孝子 (2015) 『介護福祉士実務者研修テキスト「第2巻 介護Ⅰー介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術」』中央法規出版
- 12) 公益社団法人日本介護福祉士会 (2014) 『介護福祉士基本研修テキスト』中央法規
- 13) 野田由佳里・太田貞司・及川ゆりこ・鈴木俊文 (2017) 「ファーストステップ研修修了者追跡調査による研修効果及び介護職チームのリーダー・中堅介護福祉士の役割に関する研究」『聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要』15巻, 81-95
- 14) 太田貞司 (2017) 「介護職の職能集団の形成とチームリーダー」『京都女子大学生生活福祉学科紀要』12巻, 15-27

A Study on Career Formation and Practice of Certified Care Workers in The Nursing Home
—From Certified Care Workers First Step Training And Required Certified Care
Worker Statues 12 Items Attitude Survey—

Atsushi USHIDA

Department of Health and Welfare,
Faculty of Welfare and Health Science,
Fukuyama Heisei University

Abstract

This research for all nursing homes and community-based nursing homes in A prefecture.

And it is a survey with 255 certified care workers working in 19 nursing homes.

From this study, 255 certified care workers, the actual condition of first step training and attendance attitude were clarified.

And the practical consciousness about 12 items of required nursing care worker 's image was clarified.

In A prefecture, certified care workers who have completed certified care workers first step training tend to work in large nursing homes.

KEY WORDS : certified care worker certified care workers first step training
required certified care worker statue 12 items